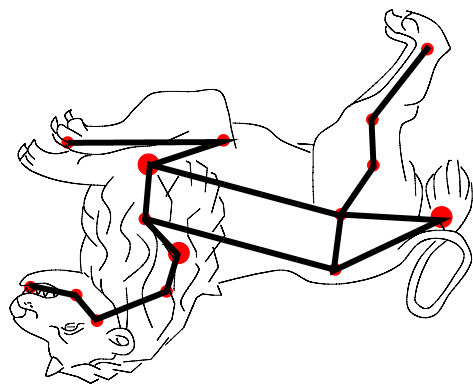
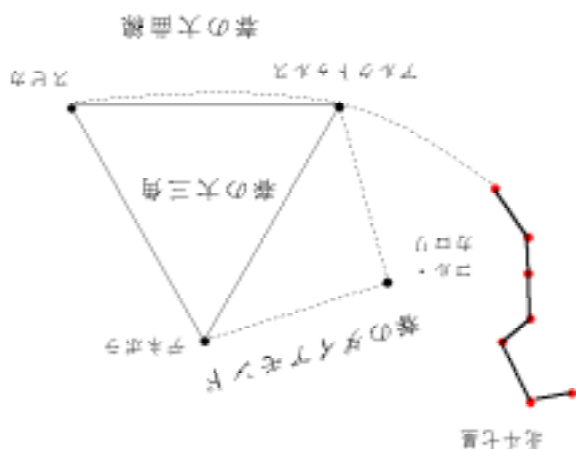


場所：			
日時：	月	日	～
名前：	学年：		
天気			



星座を探そう 春の星

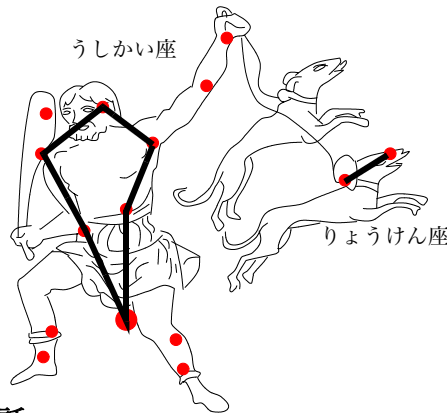
北斗七星からのはしりて1等星へつながりよう！
1等星は三つだけ、それより目立つ北斗七星から探していこう。弓なりにたどるとうしかい座アークトゥルス、おとめ座スピカにつながり、それらとし座の2等星デネボラでほぼ正三角形をつくる。これが**春の大三角**よばれるものだ。さらに伸ばすとかわい四角形のカラス座にぶつかるよ。



春の星座の探し方

うしかい座

α 星はオレンジ色の一等星で、星座はネクタイの形をしています。北斗七星→アルクトゥールス(うしかい座)→スピカ(おとめ座)につながる線を「春の大曲線」と呼んでいます。

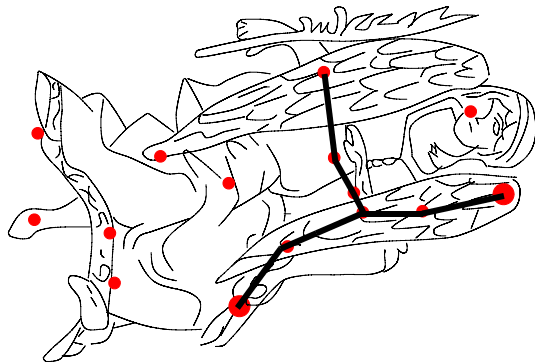


星座の神話

巨人族で力持ちののアトラスは、大神ゼウスと戦って負けたのさ。その罰にアフリカで頭と両手で空をささえることになったんだけど、つらくて、うんざりしたから、ペルセウスにたのんでメドゥーサを見せてもらい、自分から石になったんだよ。これが、アフリカの北にあるアトラス山脈なんだ。
この星座は、いろいろな神話の人物なんだ。小ぐまのアルカスという話もあるんだよ。

おとめ座

麦の穂を持った、あらゆる生き物をはぐくむ農業の女神デーメテルの姿や、その娘で、後にあの世の国の支配者の妃となったペルセポネであるともいわれています。持っている麦の穂先の部分がスピカで、「とげとげしたこく物の穂」という意味です。

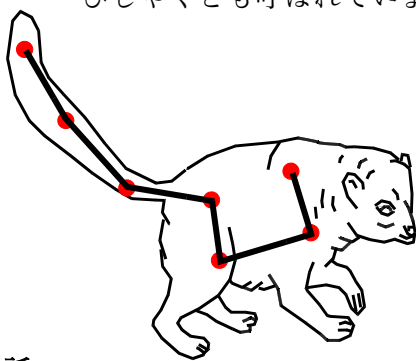


星座の神話

デーメテル(おとめ座)の美しい娘ペルセポネは、冥土の神にだまされて大地の底につれて行かれたんだ。ゼウスに頼んで何とか連れ戻したんだけど、娘が持たされたザクロの実を4コ食べたために、1年のうち4ヶ月は地の底に行かされるんだ。これが冬のはじまりになったんだって。

こぐま座

いつも真北に輝く北極星のある星座として知られています。星のならばが、北斗七星とそっくりなので、北斗の大びしゃく(北斗七星)に対して小びしゃくとも呼ばれています。

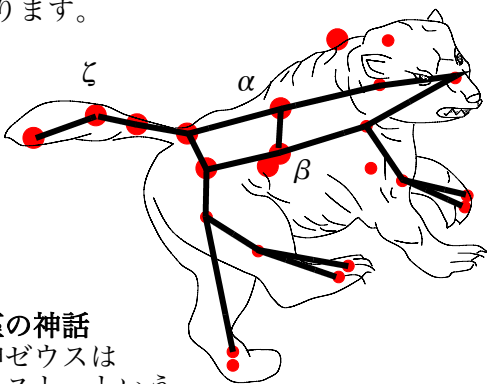


星座の神話

カリストー(大ぐま座)の生んだ子供・アルカスだよ。すぐ腕の猟師になったアルカスは、母がクマにされたことを知らなかったんだね。アルカスを見たカリストーが息子をよく見ようと近づいたんだ。でもアルカスは近よってくる母クマを、弓で矢をうとうとしたんだ。かわいそうだと、あわれに思った大神ゼウスに子供まで天にあげられ星座になったんだよ。それより、母親を人間にもどせばよかったのに・・・。

おおぐま座

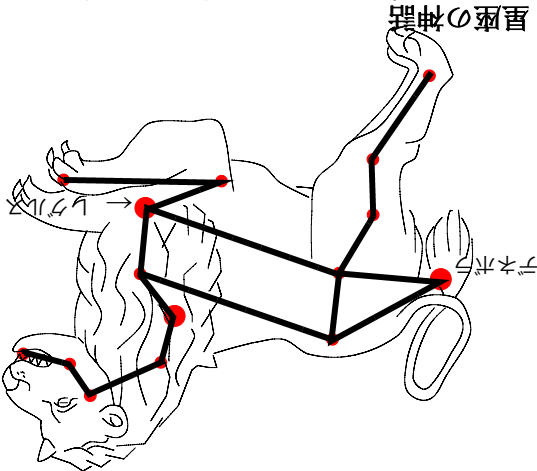
春の夜は北の空高く長々と横たわっているの、一年の間でも一番の見ごろです。中国では北斗七星と呼ばれ、アラビアでは**ゼータ**星は目の検査の星です。 α 星と**ベータ**星をつないだ線を5倍のばすと北極星にぶつかります。



星座の神話

大神ゼウスはカリストーという女の人を好きになっちゃったんだ。それに怒ったゼウスの奥さんのヘーラによって呪いをかけられてしまう。みるみるうちに獣の毛が生え、泣き叫ぶ声はクマのほえ声になっちゃった。クマの姿に変えられて、一年中休むことを許されない星座にされたんだ。(ある地域では全然沈まないんだ、だから休み無し)

人までも食べる大ジシだったんだ。たてがみは血まみれなんだよ。王様の命令を受けたヘラクレスが退治にきだけど、弓矢もきかなかつたんだ。最後には首をしめられ退治されちゃった。その皮は、ヘラクレスが肩にかけているんだよ。



ふたご座、かに座に続いてのぼってくる星座の大きな星座です。「ししの大がま」と呼ばれ、草刈かまの?形をしています。

しし座